

森林やまがた

No.148

2013.11



目 次

第23回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
県営林経営計画の見直しについて	4
林業事業体に関する情報の登録・公表について	5
山形県森林情報管理システム	6
全国育樹祭1年前イベントの開催	7
みどりのページ	
緑の少年団の出前教室を開催	8
県民の森・源流の森での新たな取組み	9
「やまがた絆の森プロジェクト」リポート2 イオングループ&(公社)山形県トラック協会	10
普及情報	
森林作業道の作設技術	11
森の人紹介	
菅 雅仁さん・伊藤文一さん	12
森林環境学習の推進について	13
「村山版森のようちえん」の取組みについて	14
第8回東日本チェンソーアート競技大会	15
森林病虫獣害対策の実施について	16
山形県の古木・名木、公共木造施設	17
丸太価格・製材品価格の推移	18

第23回 山形県林業まつり「緑と水と木の祭典」開催 今年も大盛況でした!



県民の皆様に森林の大切さや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、『第二十三回山形県林業まつり』（緑と水と木の祭典）が十月十九（土）・二十日（日）の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。また、今回も「第六十三回農林水産祭」として「秋の食彩まつり」と同時に開催されました。各展示

ベースでは県産木製品や県産きのこの展示販売をはじめ大人から子供まで参加できる楽しいイベントが行われ、あちらこちらで長蛇の列ができました。

今年は、初日、澄みきった秋晴れに恵まれたものの、二日目は朝から雨が降り続いたこともあって、昨年より七千人少ない、二日間で約三万人の参加となりました。

初日の十九日正午からは、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として、細谷副知事による開会宣言、主催者による丸太カットが行われ、その後、村山農業高校による「徳内ばやし」が会場を賑わし、盛大に開会しました。若々しく、躍動感ある演舞と尾花沢に伝わる各流派の踊りを取り混ぜた躍動感あふれる、華麗な踊りに、来場者は、大きなり拍手を送つておりました。



で使い慣れないノコギリと格闘し、幼児積木競争や青空木工教室でも楽しそうに木に触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらうことができました。

また、今年も「県産木材コーナー」を設け、やまがた県産木材利用センターは、「やまがたの木」認証材を展示了ほか、木材利用ポイント事業推進協議会では、今年度から始まっている「木材利用ポイント」についてPRするなど、県産木材を使用した際の支援制度等について、住宅に関する幅広い情報を提供していただきることができました。

その他にも、やまがた緑環境税パネル展示や平成二十六年秋に金山町の「遊学の森」での開催が決定している「第三十八回全国育樹祭」のP

R、旬のきのこや栗などを材料にしたおいしい山形の食材販売、木の葉や木の実で作る木工クラフト、きのこ植菌体験など、木のすばらしさ、森の恵みを実感していただきました。

さらに、ステージでは、ゴスペル女性ボーカルグループ「ポンスール」とマーチングバンド「J-sniper」による楽しく味わいのある演奏を披露していただきました。

林業まつりは、毎回多くの参加者がで賑わうイベントであり、毎年楽しみにしている方がたくさんいます。県民の皆様にとって森林の働きや木材の良さ、森の恵みを感じ、体験することのできるすばらしい機会となるよう、これからも皆さまの御協力をよろしくお願ひします。

〔県森林課〕

県営林経営計画の見直しについて

◆はじめに

県営林事業は、模範的林業経営を目的に明治四十三年から始まり、各種記念造林及び災害予防造林等目的として逐次拡大を図る一方、立木処分完了に伴う契約解除等を経て現在に至っています。これらの県営林を適切に管理するため、五年ごとに、十年間の経営計画を定めており、今年度は、その見直しの年になつております。



そこで、見直しにあたつての経営方針を定めましたので、県営林の現況及び事業実績と併せて紹介します。

◆県営林の現況及び事業実績

現在、県営林は合計七十二箇所、総面積二、三一七haが県内二十四市

町村に設定されています。その内訳は県有林（真室川、荒砥、県民の森）三箇所、三七〇haと分取契約による県行造林六十九箇所、二、九四七haから構成されています。

事業実績として、保育間伐は、管

理経営事業により、平成二十年から平成二十四年までの五年間に三二七ha、年平均六・五ha実施しており、さらには利用間伐は、森林整備促進・林業等再生基金事業等も活用して、平成二十二年からの三年間に七六ha実

施し、利用間伐等による立木処分量は、平成二十年から平成二十四年までの五年間で六、九三七m³、平均で年間一、三八七m³となっています。

表-1 主な事業実績

区分 年度	保育間伐			利用間伐		
	経営事業	基金事業	計	基金事業	その他	計
20実績	56 ha	ha	56 ha	ha	ha	0 ha
21実績	35		35			0
22実績	65	22	87	24	31	55
23実績	47	50	97	11		11
24実績	52		52	10		10
合 計	255	72	327	45	31	76

表-2 立木処分実績

区分 年度	県営林数	処分数量		収入
		本数	材積	
20実績	3	2,449本	1,443 m ³	2,679千円
21実績	6	2,251	515	3,116
22実績	5	14,423	2,520	5,079
23実績	5	7,748	1,933	3,500
24実績	4	7,655	526	4,473
合 計	23	34,526	6,937	18,847

◆見直しにあたつての経営方針について

県営林経営について、収入の基本

となるべき財産収入の伸びが期待できない状況が暫くは続きますが、計画的・安定的な事業計画を策定し、次の経営方針で望みます。

① 県営林の経営改善のため、事業

の実施に当たつては、「森林経営計画」の樹立を拡大し、国庫造林補助金を効率的に導入していきます。

② 積極的な利用間伐を実施し、中間収入の確保に努めます。併せて、路網整備に努め今後の保育等の経費コスト縮減に努めます。

③ 県全体の伐採量は、年平均五、〇〇〇m³を目指します。

◆おわりに

県営林経営は、前途多難ではあります。ですが、経営方針に基づき、新たな経営計画の基に、県営林本来の役割を發揮できるように取組んでまいります。

林業事業体に関する情報の登録・公表について

◆情報の登録・公表の目的

林業事業体が事業量を確保し、安定した経営を行うためには、森林所有者等の森林整備の仕事を依頼する方々からの信頼を得ることが重要です。このためには、森林整備の仕事の質を確保・向上しながら低コスト化を実現しつつ、森林所有者等に自社の事業実行能力や安全管理体制等の情報を積極的に提供することが効果的と考えられます。

このため、山形県では、このような取組みを希望する林業事業体の事業実行能力や安全管理体制等の情報を県ホームページにおいて公開し、森林所有者等が客観的でわかりやすい基準によって事業実行者を選択できるよう「林業事業体に関する情報の登録・公表」を導入することとしました。

◆公表の内容等

林業事業体の情報は、次のとおりです。

- 一 事業体の基本情報（住所・連絡先等）
- 二 雇用管理情報（社会保険加入状況）

◆登録・公表へ至った経緯

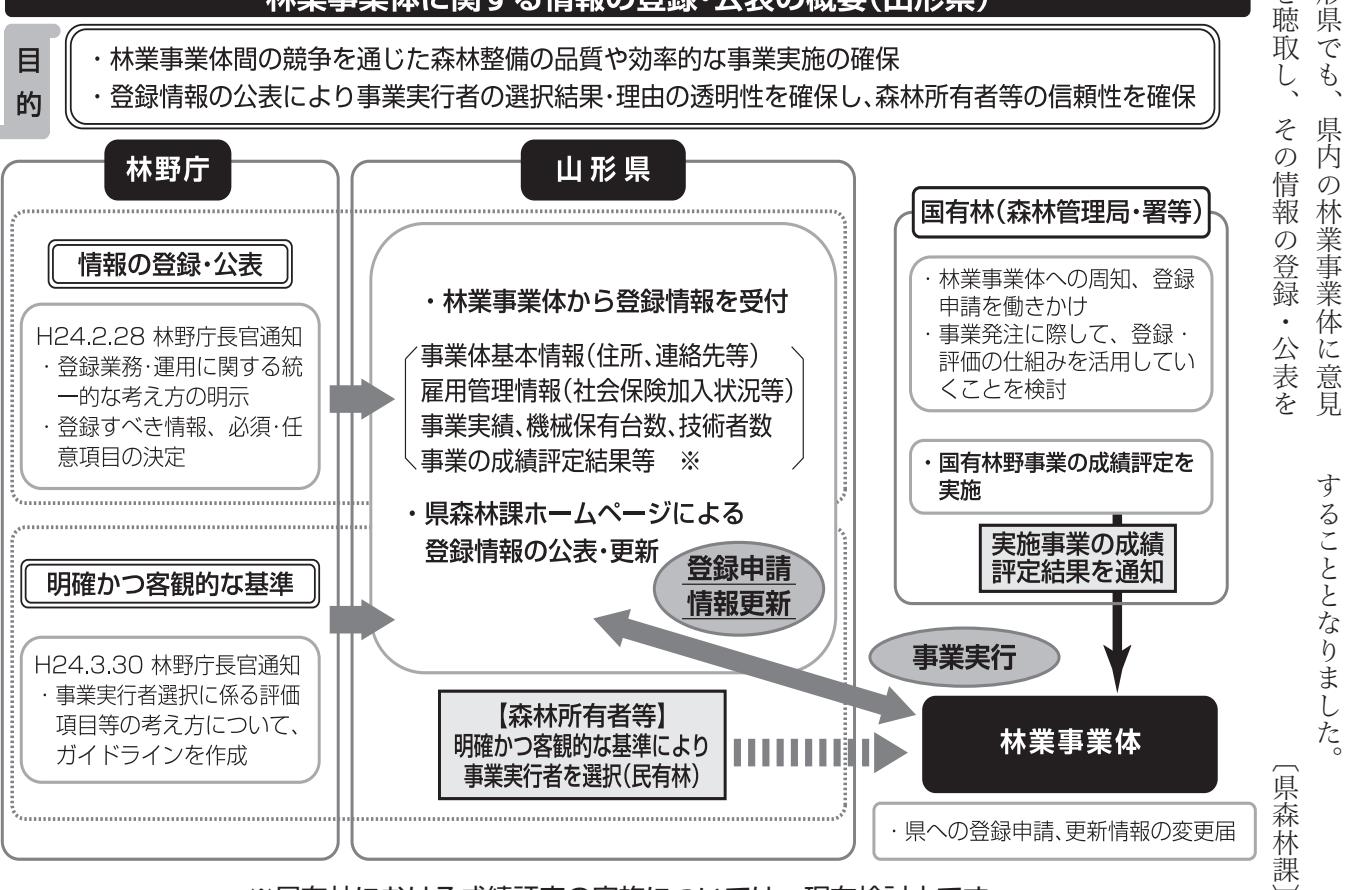
平成二十三年七月に閣議決定された「森林・林業基本計画」において、「林業事業体を登録・評価する仕組みの導入を推進する。」とされ、山形県でも、県内の林業事業体に意見を聴取し、その情報の登録・公表をすることとなりました。

- 三 造林・素材生産等事業実績
- 四 林業機械保有台数（高性能林業機械等のレンタル台数も含む）
- 五 技術者・技能者数（森林施業プランナー、森林作業道作設オペレーター、フォレストワーカー・リーダー等）

- 六 国有林野事業の成績評定結果
- 七 その他情報（地域への貢献、表彰実績等）

平成二十五年八月末現在の登録事業体数は、

- ・村山総合支庁管内 八事業体
 - ・最上総合支庁管内 十五事業体
 - ・置賜総合支庁管内 三事業体
 - ・庄内総合支庁管内 八事業体
- 合計三十四事業体です。詳しくは、[\[山形県林業事業体に関する情報の登録・公表\]](#)により、ご覧ください。

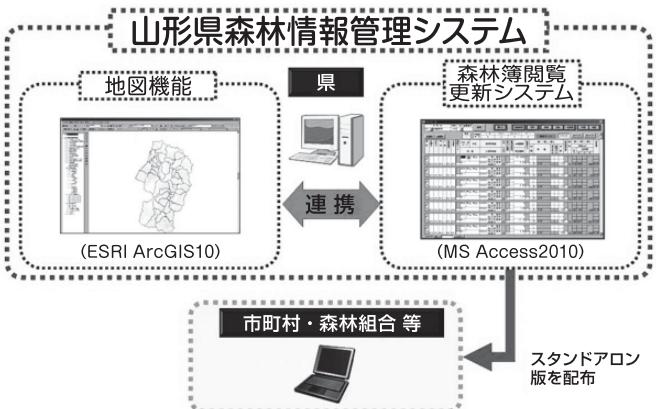


山形県森林情報管理システム

～サブシステムの概要について～

◆はじめに

森林情報管理システム（森林GIS）は、森林簿や森林計画図を一元的に管理し、分析や処理を行うシステムです。本システムは、平成二十四年度にサブシステムとして「森林経営計画作成支援システム」と「施業・伐採情報管理システム」の機能を追加しました。ここでは、今年度より運用を開始しておりますサブシステムの概要について紹介します。



◆森林経営計画支援システムの概要

このシステムは、森林GISで一元的に管理している森林簿及び森林所有者データを基に、森林経営計画書を作成することができるシステムです。このシステムでは、計画書を作成するだけでなく、認定要件の適合確認も行うことができます。

システム導入前までは、計画書の作成や認定審査などのすべてを手作業で行っていましたが、導入後はデータでのやりとりが可能となり、計画書作成から認定審査・実行状況報告までをシステムにより行うことが可能となります。

◆施業・伐採情報管理システムの概要

施業・伐採情報管理システムには、「施業履歴管理機能」と「伐採情報管理機能」の二つの機能があります。

今まで施業履歴の管理は、造林補助事業、緑環境税事業・治山事業等の県事業、伐採届出処理・集計をそれぞれ個別に行っていました。その

ため、施業履歴の実績は量的なものしか把握できませんでした。

施業履歴管理機能では、今まで個別に管理していた施業履歴を一元管理することで、森林GISにより、量的な把握だけでなく面的な把握もできるようになります。

二 伐採情報管理機能

伐採情報管理機能では、森林簿データを基に伐採届を作成することができます。

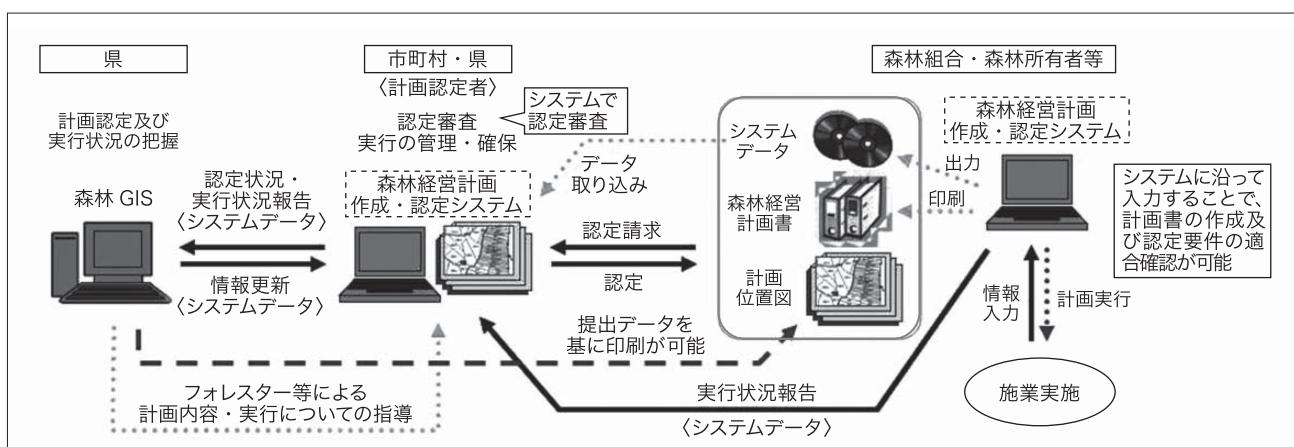
また、当システムでは届出の作成だけでなく、届出の適合審査や適合通知作成、主伐後の更新状況確認の管理や集計も可能となります。

当システムにより、伐採情報及び更新情報を一元的に把握できるようになり、森林情報の更新作業を効率的に進めることが可能となります。

◆おわりに

サブシステムは、今年度より運用を開始していますが、より使いやすくしていくために、システムの改良や障害の改善に努めてまいります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

〔県森林課〕



【森林経営計画支援システム 概要】

「森を活かし、森と生きる」

全国育樹祭一年前イベントの開催

◆はじめに

第三十八回全国育樹祭の一年前イベントとして「2013国民参加の森林づくり」シンポジウムを九月十四日（土）に米沢市置賜文化ホールで開催しましたので報告します。

国民参加の森林づくりシンポジウムは、国土緑化推進機構、森林文化協会、朝日新聞社と育樹祭開催県が主催となり、育樹祭の前年に行われており、今回は、「森を活かし、森と生きる」をテーマに、豊かな森林資源と里山のふるさと山形から新たな森林文化を発信することを目的に開催しました。

シンポジウムは、作家の椎名誠氏の基調講演、一橋大学大学院教授の寺西俊一氏の基調報告、そして寺西教授をコーディネータとして、岩手県大槌町NPO法人「吉里吉里国」理事長の芳賀正彦氏、プロダクトデザイナーの若杉浩一氏、作家の浜田久美子氏、金山町森林組合長の岸三郎兵衛氏によるパネルディスカッションが行われました。

当日は、九月の三連休初日という



基調講演を行う椎名 誠 氏

ことから、県内外から四百名の参加がありました。パネルディスカッションでは会場からの質問等もあり、活発な意見交換が行われました。

◆基調講演

椎名誠氏から「地球レベルで考える木と人間」というテーマで、基調講演がありました。

椎名氏は、世界各国を旅行した経験談を披露、特に森林の少ない地域での生活習慣に触れながら、いかに日本が自然に恵まれた国であるか、また、森を守る、森を活かすということを全ての日本人が考える時代に入っていると訴えました。

◆基調報告

寺西教授から「森の恵みと自然資源経済の再生」と題し基調報告がありました。

寺西教授は、木質バイオマスを利⽤して、エネルギー供給体制を転換させた海外の事例を紹介しながら、森のエネルギー、森の恵みを活かす地域再生の戦略として「モリノミクス」で日本を再生すべきと訴えました。



基調報告を行う寺西教授

解があつてこそ普及が進むのではな
いかなどの発言がありました。

木質バイオマスのエネルギー利用についても、西欧のように熱利用を中心とした活用をすべきで、震災復興の際は、熱利用しやすい街並みを検討すべきとの発言がありました。

また、昔のよう人に森の相互関係を復活させる必要性などの発言もありました。



◆おわりに

実行委員会では、様々な機会をとらえて全国育樹祭の情報を発信するとともに、成功に向け、準備を進めていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

〔県みどり自然課〕



みどりのページ

緑の少年団の 出前教室を開催

期日

平成二十五年十月十七日（木）

場所

飯豊町立添川小学校の学校林

参加者

いいで緑の少年団員 二十六名

内容

いいで緑の少年団員 二十六名
山形県緑の少年団連盟では、緑の少年団活動の活性化を図るために出前教室を実施しています。



う事業で、今年度から行っているものです。
この日は、いいで緑の少年団からの依頼を受け、NPO法人美しいやまがた森林活動支援センターの三森和裕氏・奥山彰敏氏の両名を派遣して環境教育活動を行いました。

スズメバチやヤマウルシ、マムシなど、森の中に潜む危険を学んだ後は、色づきはじめた秋の森を散策し、いろんな木の実やきのこ、葉っぱの違いなどを観察し、森の多様性をわかりやすく教えてもらいました。

最後に、アオダモに含まれるクマリンという蛍光物質によって透明な水が青く見える様子を観察することができます、子供たちはとても感激して

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H25.8.1~10.15)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

青山建設㈱、曙ブレーキ山形製造㈱、(株)アサヒ技術、(株)安部組、阿部建設㈱、有賀建設㈱、(株)イヨテクニカル、(株)ウンノハウス、(株)エスパワー、(株)エフエム山形、オイルケミカルサービス㈱、(株)オオバ、尾形興業㈲、(株)小川建設、奥山建設㈱、笠原建設工業㈱、勝川建設㈱、(株)カナン、(株)環境管理センター、菊池商事㈱、基礎地盤コンサルタンツ㈱、北日本特殊イサベラ建設㈱、(株)日下部工務所、工藤石油店、(有)くまがい、(株)黒田組、(有)県南工業、(株)幸輪、(有)後藤クリーン商会、(有)後藤竹材店、(株)斎藤板金工業所、蔵王食品㈱、(株)ザオ一測量設計、(株)寒河江技術コンサルタント、(有)山栄測量設計、三協コンサルタント㈱、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、渋谷建設㈱、(株)ジャワ商会、(有)ジョイランチ、(株)庄内測量設計舎、城北電気工事㈱、伸栄伝導機工㈱、(株)新庄工務所、新庄土木㈱、新和設計㈱、菅睦建設㈱、すずき看板、鈴治㈱、仙台ターミナルビル㈱、ソック(株)、(株)大和エンジニア、高正園、(株)高橋工務店、高谷建設㈱、(株)田村測量設計事務所、(株)千歳建設、(株)角田商店、鶴岡ガス㈱、ディスピオテック㈱、テルス㈱、天神森調剤薬局、(株)天童木工、東北興産㈱、東北工産、(有)東北紙商、東北銘醸㈱、十和建設㈱、(株)トーホー、(株)内外ビルクリーン、(有)生居造園、(有)西長合金鑄造所、ハイメカ㈱、ヒミヤ石油工機㈱、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、プッシュ建設㈱、ブレンスタッフ㈱、(有)保刈工業、(株)北都測量設計、本間利雄設計事務所、マックル㈱、(株)マツダ建設、真室川森林造成事業協同組合、(株)マルカ、最上広域森林組合、最上セーフティ(株)、(有)安野測量事務所、山形いすゞ自動車㈱、(株)山形環境エンジニアリング、山形環境保全協同組合、(株)山形銀行県庁支店、山形健康管理センター、山形県産業技術振興機構、山形県商工会連合会、山形県測量設計業協会、山形県畜産協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体連合会、山形国際ホテル、山形酸素㈱、山形信用金庫、やまがたスポーツパーク㈱、山形電子㈱、山形富士電機㈱、(株)山形メタル、山形木造住宅プレカットシステム、山形緑十字㈱、山田建設㈱、山和建設㈱、(株)ユアシス、ロータス山形㈱

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。



みどりのページ

今後も緑の少年団への出前教室を
継続していく予定ですので、緑の少
年団活動を実施する上で講師の派遣
や教材の提供を要望される場合は、
お気軽に山形県緑の少年団連盟まで
お問合せください。

いる様子でした。

今後も緑の少年団への出前教室を
継続していく予定ですので、緑の少
年団活動を実施する上で講師の派遣
や教材の提供を要望される場合は、
お気軽に山形県緑の少年団連盟まで
お問合せください。

◆問合せ先

山形県みどり推進機構内

山形県緑の少年団連盟

担当 内海、山口

電話 (〇二三) 六八八一六六三三

県民の森・源流の森 での新たな取組み

山形県みどり推進機構では、県民
の森と源流の森の指定管理者として、
それぞれの森の特徴を活かした新し
い取組みを展開しておりますので、
その一部をご紹介します。

◆県民の森フォトコンテスト

山形県みどり推進機構では、県民
の森と源流の森の指定管理者として、
それぞれの森の特徴を活かした新し
い取組みを展開しておりますので、
その一部をご紹介します。

市内の黒沼末八さんの「秋の彩り」が選
ばれ、十月六日(日)に開催された紅
葉まつりで表彰されました。ほかの
受賞者は次のとおりです。(敬称略)
▽優秀賞=渡辺喜則(山形市) 山
川祐幸(山形市) ▽館長賞=齊藤俊
幸(山形市) ▽山辺町長賞=後藤和
久(山辺町) ▽入賞=駒沢光二(山
形市) 布施宗一(同) 横富美枝(河
北町) 斎藤敏雄(山形市) 稲村忠助
(山辺町) 黒沼正良(山形市) 斎藤
幸子(同) 志藤長雄(同) 秋葉久美
(寒河江市) 渡部歌子(南陽市)

入賞した作品は、県民の森ホームページ
に掲載されていますので、是非
ご覧ください。

二十九点の作品が寄せら
れました。厳正な審査の
結果、最優秀賞には山形



◆遊・湯(ゆー・ゆー)パック

源流の森で今年度から実施している
のは、遊・湯(ゆー・ゆー)パック
という森林の中での自然体験とお
いしい食事、入浴、送迎をひとつの
セットにした日帰りパックです。

この取組みは、山形県みどり推進
機構と県緑のふるさと公社が連携し、
置賜地域の五名以上のグループや団
体を対象に行っているサービスであ
り、源流の森のフィールドを活用し
た自然体験と、ホテルファレストイ
で又は白川荘での食事、入浴、バ
スでの送迎を組み合わせているもの

です。

源流の森での体験は、森林ウォー
ク、森の中でのリラックスコース、
陶芸、クラフト、冒険の各コースの
中から自由に選んでいただくことが
できるようになっています。

これまで、子供会やサークル仲間など
百五十名の方が参加し、源流の
森の自然を満喫していただきました。
これからも地域との連携を強化し、
多くの方から源流の森に親しんでい
ただけるような企画を考案していき
たいと思います。

(公財) 山形県みどり推進機構



「やまがた絆の森プロジェクト」リポート2

イオングループ(公社)山形県トラック協会

◆はじめに

県では、「やまがた緑環境税」を活用し、県民や企業の皆様に森づくりや自然環境の保全活動に取り組んでいただくなめ、平成二十一年度から「やまがた絆の森プロジェクト」を推進しております。

今回は、イオングループと(公社)山形県トラック協会の活動をご紹介します。

◆イオンの森

マックスバリュ東北株式会社、イオンリテール株式会社、株式会社ジヨイのイオングループ三社は、平成二十三年十二月に県と「やまがた絆の森」協定を締結しました。県内店舗の有料レジ袋による収益金を活用し、源流の森での植樹活動や環境学習に取り組んでおります。

九月二十九日(日)に源流の森で行われた「やまがた絆の森(イオンの森)」植樹祭には、福島・山形両県内のイオングループ社員との家族、イオンチアーズクラブの子供たち、(イオン店舗周辺で活動する環境クラブ)など約二百名が参加しました。

◆山形県トラックの森



姉妹で植樹体験

植樹では、ケヤキやヤマモミジ、オオヤマザクラなど二十二種類、計八百十本の苗木を植えました。

(公社) 山形県トラック協会の矢野五十本の植樹と追肥作業を行いました。活動後は、山形名物「芋煮」とおにぎりが参加者に振る舞われ、おいしく味わっていました。

佳伸会長は、「平成十七年から八年間で約二ヘクタールの土地に五千四百本の広葉樹の苗木を植栽してきました。大型トラックを走らせる私たちの仕事の性格上、二酸化炭素の排出は避けては通れない課題ですが、二酸化炭素の吸收・削減に向けた取組みとして森づくりを続けて行きました」と力強く挨拶されました。

◆おわりに

県では、今後とも、森づくりを通して企業と地域の交流が深まり、地域の活性化に繋がるよう「やまがた絆の森」を推進してまいります。

〔県みどり自然課〕



トラックの森で記念撮影

森林作業道の作設技術 ～表土ブロック積み工法～

◆はじめに

森林・林業の集約化施業を効率的かつ低コストで行うため、路網と高性能林業機械を組み合わせた森林施業の実施が求められています。

林野庁により、路網の区分を「林道」、「林業専用道」そして新たに林業用の機械が走行する「森林作業道」に区分した「森林作業道作設指針」が平成二十二年十一月に策定されました。

これを受け、山形県においても「山形県森林作業道作設指針」を平成二十三年三月に制定しています。

この作設指針では、森林作業道は森林整備、木材の集材・搬出のため

に継続的に用いることから、作設経費を抑えつつも、繰り返しの使用に耐えるよう丈夫であることが必要で、

路体は強固な土構造を基本とするとしています。つまり、一度限りの使

用ではなく、次回の森林施業にも使えることを前提としています。そこで、丈夫で壊れにくい森林作業道を作設するために、県では、表土ブロ

ック積み工を推奨しています。

施工の手順

①締め固めた心土の盛土のり面側にできるだけ寄せて表土を載せる



②心土を表土の内側に置く



③十分に締め固める



山形県では、集約化施業を効率的かつ低コストで行うために欠かせない森林作業道作設の技術者を養成することを目的に、平成十九年度から森林作業道作設オペレーター研修を実施し、この工法を指導しています。

通常は、盛土の基礎部分を段切りして締固めてから、心土（※2）を三十cm程度ごとに盛り立てて締固めを行い、それを繰り返して路体を形成します。

◆表土ブロック積み工法とは

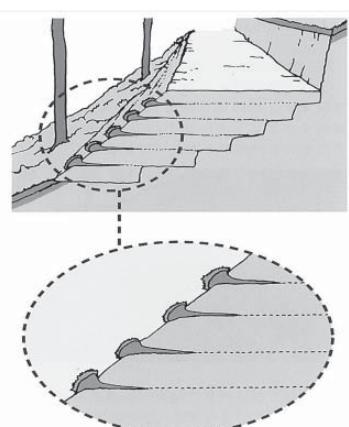
森林作業道において、盛土法面の緑化を促進する工法として、はぎ取った表土（※1）や根株を用いた盛土法面保護工のひとつです。

※1 表土 有機物や腐植が多く含まれる部分（AO層、A層）

つまり、現地で発生するものを有効に活用することで低コスト化が図られ、さらに早期に緑化することで丈夫で壊れにくい路体を形成することができます。

◆表土の利用

この工法は、多くの有機物や埋土種子を含んだ表土を盛土法面に配置することにより、盛土法面の早期緑化を図ろうとするものです。



施工後3年経過



施工直後

森林作業道オペレーター研修等についての問い合わせは、各総合支庁森林整備課普及担当または、森林研究研修センターにお問い合わせ下さい。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

次世代の林业の担い手

西置賜ふるさと森林組合
菅 雅仁さん



今回の森

の人は、いつもと趣向を変えて、

これから森

の人になつていく（なつてほしい）若者を、期待を込めて紹介したいと思ひます。

西置賜ふるさと森林組合の職員である菅 雅仁さんは組合に採用になつて二年目、平成生まれの二十四歳です。以下はインタビュー形式で。

「森林組合についての知識はあつた。木を伐るところ、くらいしかありませんでした。」

「今の担当業務は、主として販売を担当しています。他に森林整備の現場にも行きます。」

「一年務めてみてどうですか。」

「場所（地名）がわからないことに苦労しています。今一生懸命覚えています。」

「森林組合で良かったことは、就職する前はマツ、スギ程度しか知りませんでしたが、今では森林には様々な木があり、地域によってその姿が違うことが分るようになつて、山を眺めるのが楽しくなりました。」

「学生です。工学部で河川堤防の研究をしていました。」

「森林・林業とのつながりは、つながりは全くなかつたですね。」

「大学三年生の時に東日本大震災があり、津波に関連した海岸林の研究報告を聞いたりしていた中で、森林に対して興味を持つようになりました。」

「森林組合に就職する前は、学生です。工学部で河川堤防の研究をしていました。」

「森林・林業とのつながりは、つながりは全くなかつたですね。」

「大学三年生の時に東日本大震災があり、津波に関連した海岸林の研究報告を聞いたりしていた中で、森林に対して興味を持つようになりました。」

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

地域にあつた活動を

伊藤文一さん



鶴岡市の旧朝

日村地域で、なめこ・ゼンマイの栽培に取組み、大きな成果を挙げている伊藤文一さんを紹介します。

伊藤さんは、昭和六十年頃、地域の有志約二十名とともに「原木なめこ研究会」を立ち上げました。以前からなめこの産地であった朝日地域ですが、だんだん収穫量が減つてきましたから、地域に適した菌を見つけるようとして始めたそうです。

会員が自ら山に入つて菌を採取し、県の林業試験場（現在の森林研

究修センター）と連携しながら、収量性の高い種菌の開発に取り組みました。数年間の試験を経て開発された菌は、収量・日持ち等に優れるほか、食味等が消費者にも好評で、地域で多く栽培されるようになります。

今度は正真正銘の「森の人」として、このコーナーで紹介できることを楽しみにしています。菅君！

〔置賜総合支庁森林整備課〕

期の「ゼンマイ栽培研究会」の設立に携わり、栽培技術の確立・生産量の拡大等に取り組みました。当時は、生産量が毎年倍々に増えていき、地域全体が大きな夢を持って活動していましたと言います。

域全体が大きな夢を持って活動していましたと言います。

森林環境学習の推進について

(学校林環境学習推進指導者研修の紹介)

◆はじめに

県では、小学生等が学校や様々な学習の中で森や自然に親しみ・学ぶ体制を構築するため、森林環境学習の推進体制を整備しています。

ここでは、山形県森林研究研修センターが平成二十二年度から行つて、学校林環境学習指導者研修について紹介します。

◆学校林環境学習推進指導者研修

学校林環境学習推進指導者研修では、学校林研究研修センターでは、学校における森林環境学習の推進と定着を図るため、学校林（授業等で使う地域の学習林も含む）を使って、教職員や学校活動をサポートするPTA等を対象に、森林環境学習のやり方をアピールする学校林環境学習指導者研修を実施しています。

◆学校林とはなにか？

学校林は昭和二十五年ごろから将来的の学校の建替えや修繕の材料、売払いによる財産収益等、学校の基本財産の形成を目的に、多くの学校に設置されましたが、近年の建築事情の変化や国産木材価格の低迷により本来の意味合いが薄れ、利用されない学校林が多くなっています。

【高畠町立高畠小学校】

高畠小学校林はアカマツ林と昭和四十八年に児童が植栽したスギ林の二種類。スギ間伐材チップを作りア

一方、平成十二年以降に設置された学校林は、環境教育や教科教育、

課外活動などの現代的な目的で設置されることが多く、比較的利用される傾向がありましたが、ゆとり教育や学習指導要領の見直し等の影響により利用率が低下しています。

学校の施設である学校林を森林環境学習の場として活用することは、

とても意義のあることです。森林をフィールドにして学校が環境学習を行うことは困難で、学校からは「専門家のサポートが不可欠」との意見が多く寄せられました。この事業では、学校林の安全な学習環境を整備したうえで、学校に対し学校林環境に即した学習内容を紹介しています。

◆これまで実施した小学校と内容

【寒河江市立幸生小学校】

幸生小遊々の森は学校から歩いて五分と近い距離にあることから、季節ごとの森林の変化を児童に感じてもらう複数の活動を提案しています。

【金山町立明安小学校】

金山杉の里にある明安小学校林は、やはりスギの学校林です。でもよく調べるとスギの下層に多くの広葉樹が存在していました。学校からの要望もあり、山形大学の林田光祐教授の指導のもと、スギ林内でも多様な広葉樹の学習ができるよう森林整備を行いました。活動では、学校林環境に合わせスギの学習と広葉樹の学習の二種類を提案しました。五・六

カマツ林内に整備した観察路に児童が敷き詰めました。森林観察は、ふかふかの道でじっくり楽しみました。

【白鷹町立荒砥小学校】

荒砥小では、一・二年生を対象に、

課外活動などの現代的な目的で設置

されることが多く、比較的利用され

る傾向がありましたが、ゆとり教育

や学習指導要領の見直し等の影響に

より利用率が低下しています。

【鶴岡市立山戸小学校】

山戸小では、三・四年生を中心

に、森に住む動物の痕跡を探した

二月の冬の回も活動をしました。雪

の中、森に住む動物の痕跡を探した

り、落葉した枝先が新たな芽吹きの

準備をしていました。雪

◆今年度実施した小学校と内容

【天童市立山口小学校】

十月十七日には天童市の山口小

校の学校林を使つた活動を実施しま

した。この日は同市津山小と合同で、

水晶山登山道を歩きながら、学校林

のスギの樹高を測つたり、十種類以

上の広葉樹を見分ける問題を解いた

りしながら、森林の植物が多様なこ

◆まとめ

紹介したとおり、森林環境学習で

は、それぞれの森林環境に適した学

習を選択する必要があります。県で

は、これからもみどり環境税を活用

し、学校の森林環境学習を推進して



間伐したスギを運ぶ児童たち

やまがた緑環境税活用事業 「村山版森のようちえん」の取組みについて

◆はじめに

幼児の自然体験を通じて、子どもとの健やかな成長と森林などの自然環境への意識を養う「村山版森のようちえん」の取組みについてご紹介します。

◆取組みの背景

森のようちえんは、デンマークやドイツで広く行われている公的施設「森の幼稚園」のことで、園舎を持たずに毎日の保育を森の中で行うことが主流になっています。

村山総合支庁では、この「森の幼稚園」をモデルとして、これから成長や発達に大きな影響を与える幼児期に、身近な森林に触れ合う機会をつくり、森林への親しみと豊かな成長を育むことを目指し「村山版森のようちえん」の取組みが始まりました。

◆今年度の取組み

朝日少年自然の家において、五月十八日、寒河江第二幼稚園が、「森の自然に四季を通して 体験する」をテーマに、第一回森のようちえんが開催されました。この取組みには、幼稚園の親子、保育関係者など約百三十名が参加しました。はじめに、

平成二十四年度から三年間は、普及・促進に向けて取組みを進めることにしております。具体的には、森のようちえんを先導的に実践する中核施設を4団体位置付け、自ら企画・検討による取組みを行うほか、関係者に対する理解や関心を高めることを目的に活動発表大会を開催し、事業成果を広く情報発信することにしております。また、これらの取組みを効果的に進めるため、検討委員会からもアドバイスをいただくことにしております。

第二回の森のようちえんは、六月十三日、上山市内の自然休養林において、上山あい保育園が、自然環境への親しみや興味を深めることなどをねらいとして開催されました。参加者は、園児、保育者など約七十名が参加しました。この取組みは、活動プログラムを設けず、幼児それぞれの自然に対する興味・関心を大切にしながら森林散策を行いました。



親子で取組んだ森のようちえん

ふりかえりや質疑応答を通じて、取組みへの理解を深めました。

活動後、参加者を対象にした意識調査では、「子ども達の興味・関心が高まるところが良いと思った。」「子どもの意欲・自主性に驚いた。」「自然との関わりを改めて考えて、保育するきっかけになるので続けてほしい。」などの感想が寄せられました。

今年度は、これらの取組みに加え、森のようちえんが四回、活動発表大会が一回開催されます。

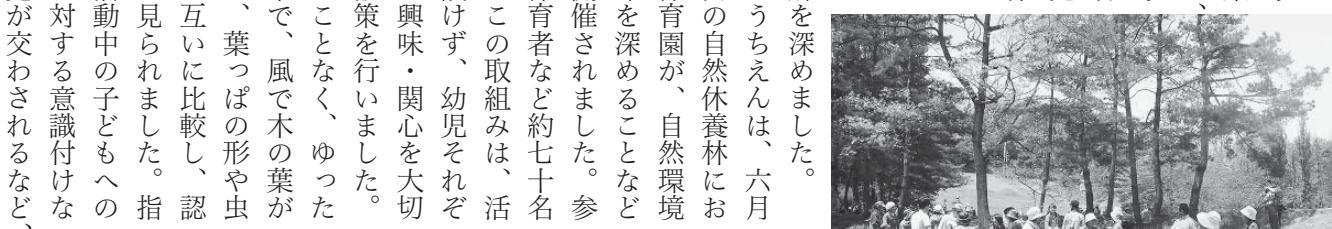
◆おわりに

「村山版森のようちえん」の取組みを通じて、幼児期における自然体験を行いました。子ども達は自然の空間を自由に走り回り、自分が発見した物を仲間同士で見せ合い、共感する様子が多く見られました。引き続



子ども達の様子

き、東北文教大学短期大学部の佐東教授を講師に迎え、保育関係者を対象に指導者研修が行われました。幼児期における自然体験の大切さなどについて解説されたほか、参加者との意見交換を交えながら取組みに理解を深めました。



子ども達の様子

全国の森の芸術家が競演！

第八回東日本チエンソーアート競技大会が盛大に開催！

九月七日から八日にかけて山形県金山町のグリーンバレー神室において、約千名の来場者を迎えて、第八回東日本チエンソーアート競技大会が開催されました。

大会には、北は北海道、南は愛知県から、腕自慢のチエンソーカーバー（チエンソーで彫刻をする人）二七名が集結し、雨交じりの悪天候の中、二日間に渡る壮絶なバトルを繰り広げました。

◆テーマは、「生活に活用できる作品」

本大会は、スギの伐根部分などこれまで利用されていなかった木材を活用して新たな価値と魅力を創り出し、山村地域の活性化や自然環境の保全を推進することを目標として、毎年金山町で開催されています。

第八回大会の特徴は、昨年までの「スギ大径材の伐根部のみを用いた芸術性の高い作品」から一転、「間伐材等を用いた実際の生活に活用できる作品」をテーマにしたことです。

これまでには、直徑約五十センチ、高さ約百五十センチを超える、予め用意された大径木の根元部一本のみ



ベストビギナー賞作品と亞斗夢さん
(作品名: WELCOMふくろうベンチ)

の使用を認めてきましたが、今回のテーマ変更に伴い、山積みにされた様々な形状、サイズの間伐材の中から、カーバー自らが早い者勝ちで使

用する材を選び出す方式としたため、材料選びの段階から、激しいバトルが繰り広げられていました。

今回の大会では、県内から参加したカーバーが過去最高の八名となり、県内からは佐藤亜斗夢さん(写真)が、ベストビギナー賞とピープルズチョイス優勝のダブル受賞に輝きました。

◆森の文化祭を併催！

東日本チエンソーアート競技大会と併せて、地元有屋地区の「森の文化祭」も開催され、下向・稻沢地区による「神輿」の奉納、柳原地区による「柳原番楽」、入有屋地区による「大黒舞」、などが披露さ

れました。体験コーナーでは、「チエンソーや使用体験」、「丸太切り」、「丸太積み」、「丸太釣り」などが無料で行われ、多くの来場者が木と触れ合うことができました。



柳原番楽

◆激しかったバトルカービング！

メインカービングの他に、限られた時間でその腕を競い合う「バトルカービング競技」も行われました。



バトルカービング優勝作品(ライオン)

予選会は一時間三十分、決勝はなんと三十分で一作品を彫りあげるという過酷なものでした。

決勝に勝ち残ったのは五人。決勝の作品テーマは、会場からのリクエストで決定されます。会場から出て

きたテーマは、ライオン、ツル、イヌ、コイ、ウマ。日ごろ彫りなれていないテーマばかりで、カーバー達は大弱り。しかし、そこは各地の競技会を勝ち抜いてきた猛者達だけに、一度チエンソーや握つてしまえば、豪快なエンジン音を響かせて、動物の形や毛並み等の細やかな部分に至るまで表現し、その様子を見ていた観客は、徐々に出来上がって行く作品を驚きの表情で見つめていました。

森林整備促進・林業等再生事業による森林病虫害対策の実施について ～クマハギ被害の軽減に向けて～

◆はじめに

昨年七月三十日、病害虫被害の調査中に赤褐色に変色したスギ林を発見、森林研究研修センターに問い合わせたところ「恐らく、クマハギではないか」とのこと。現地を確認したところ、根元が環状に剥皮されていた。やはりクマハギであった。被害箇所は真室川町大字大沢字滝ノ沢山と沢を挟んだ一ノ渡地内の二箇所で被害区域面積は約一・二ha、被害本数は三百本ほどの規模です。その後、森林課と当該事業実施の調整を行い、森林組合が事業主体になつて現在事業を実施中ですので、その内容等を紹介します。

◆事業計画

被害箇所は広葉樹林に囲まれたスギ人工林で、林齡は三十五七十年生となっています。ツキノワグマ（以下「クマ」という）を周りの広葉樹林に追い出すため、森林研究研修センターの助言も得て、人工林周囲への忌避材の設置と森林整備によりクマが出来るだけ人工林に入りにくい環境を

◆現地調査

忌避材設置位置決定と整備実施後の効果判定の基礎資料とするため林内に自動撮影カメラを数ヶ所設置し、整備前の五ヶ月から調査を実施したところ、クマの写真も定期的に撮影され、継続して行き来していることがわかりました。



〔最上総合支庁森林整備課〕

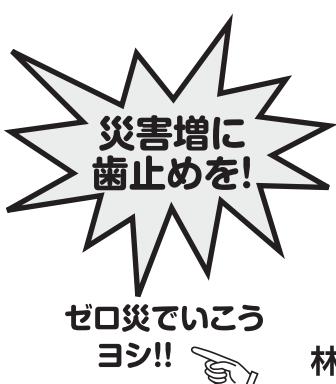
つくることにしました。実施する森林整備は間伐と枝打ちで、間伐は伐採率三十%の保育間伐、枝打ちは伐さ四mまで行い林内を明るくします。

また、枝打ちで発生した枝条を束ね、スギ根元山側に積み、クマが皮を剥ぎにくい環境をつくる作業も併せて実施します。

山形ゼロ災3か月運動 2013 労働災害ゼロをめざして参加しています!

実施期間：平成25年10月1日～12月31日

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部 TEL:023-666-4810
FAX:023-666-4811



—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2

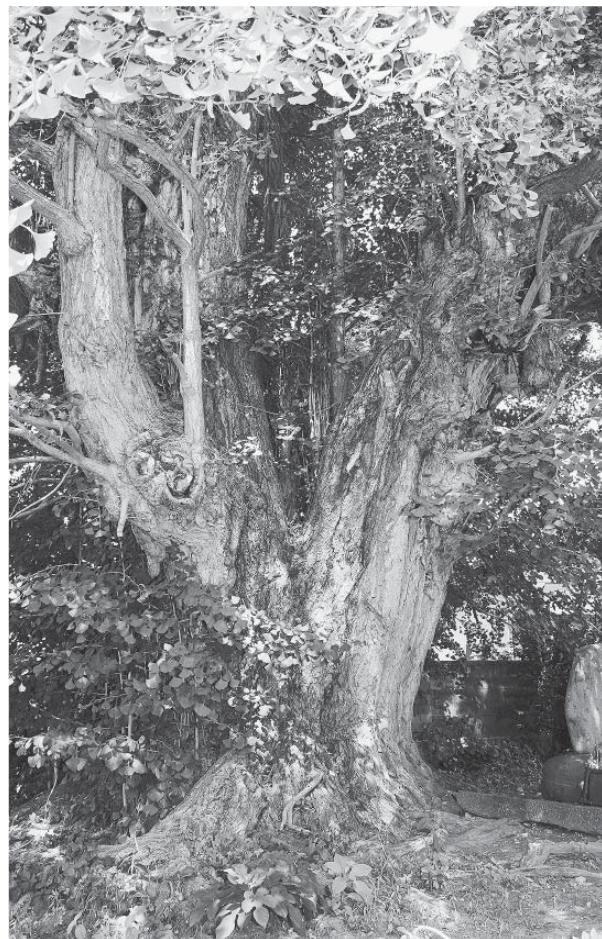


株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124

トンビマイタケ菌床
好評予約受付中！ 庭先でも栽培できます。





山形県の古木・名木⑯

楯の大銀杏

東村山郡中山町長崎

(案内略図)



〔県森林協会〕

国道一二二号を山形から寒河江に向かって中山町に入ると、最上川を渡る手前で右手に大きなイチョウの木が目に入ります。至徳元年（一三八四年）中山繼信によつて築かれた長崎楯（楯とは小規模な城砦のこと）の本丸があつた所で、イチョウの木は、繼信の孫中山宗朝の時代にこの前庭に植えられたと伝えられています。幹周約7m、樹高二十三mの雄株で、樹齢は五百年以上と推定されています。根元から一・五mのところから二本に枝分かれしていますが、樹勢は極めて旺盛で、晚秋になつて葉が黄色に輝く頃が一番の見頃です。



正面

完成年度 平成24年度

延床面積 998.2m²

構 造 木造平屋建て

特 徴 朝日地域の市立4保育園が統合し、今年の4月に開園された施設です。乳児室、1～5歳児の各保育室、遊戯室、一時保育室、調理室など各部屋とも構造材及び内装材の大半が鶴岡産の木材を活用して造られています。

また、床下暖房に木質ペレットボイラーを導入するなど環境にも優しい施設となっています。

公共木造施設⑯

朝日保育園

鶴岡市下名川字落合



遊戯室

みどりの財産を次世代に引継ぐために

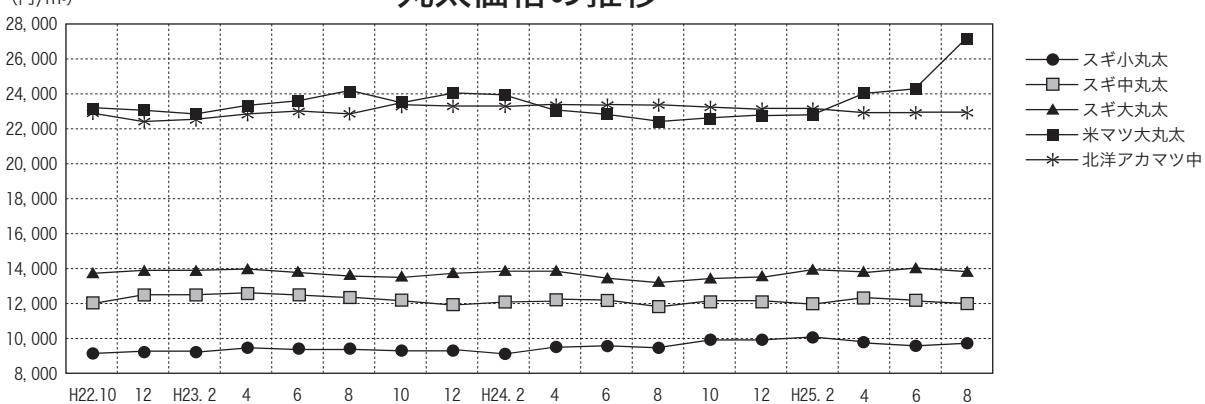
公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : yr-ringyou@atlas.plala.or.jp
ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

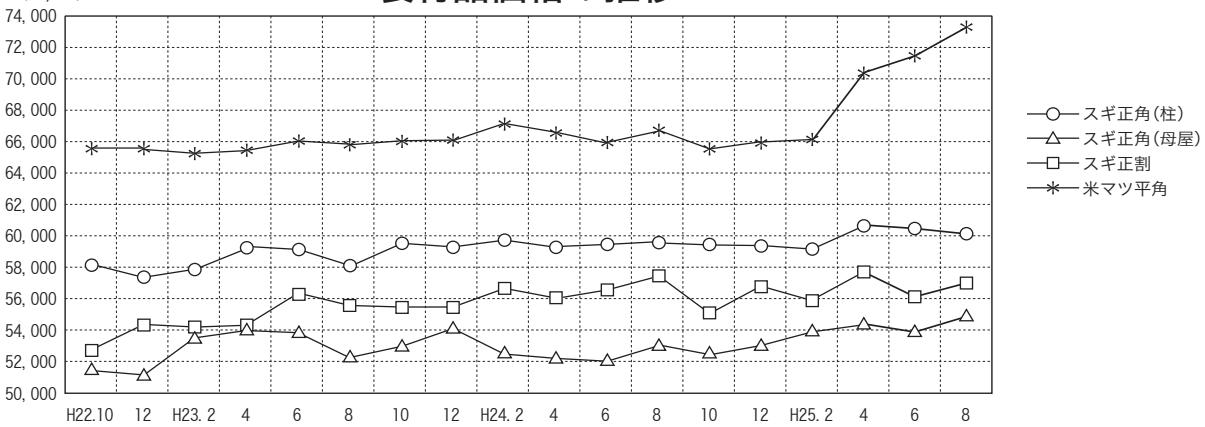
(円/m³)

丸太価格の推移



(円/m³)

製材品価格の推移



私たちは、山地に起因する災害から皆様の生命・財産を守る
“治山施設”の重要性・必要性”を訴え続けています

私たちは、森林の整備・保全・利活用を推進する手段である
“林道施設”の重要性・必要性”を訴え続けています

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川隆志 ◇事務所：山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail:info@y-sinrin.jp